

2020年06月18日

**需要急減の自動車部品業界——財務耐久力と顧客基盤に注目**

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、自動車部品業界は需要急減に直面している。自動車の生産・販売に減速感があつたところに新型コロナ問題が加わり、2020年は大幅な市場縮小が避けられない。自動車部品メーカーの信用力への影響は、各社の財務耐久力や顧客基盤の違いによって濃淡が出てきそう。資本蓄積が進んで純有利子負債が低水準であれば、一時的な業績悪化には耐えられよう。また競争力が強い完成車メーカーとの取引ウエートが大きければ、生産・販売の減少が相対的に小さくなる可能性がある。一方、財務基盤が脆弱であったり、主要顧客の生産・販売が市場以上に落ち込んだりする場合は、格付へのマイナス影響が懸念される。

2010年以降、自動車需要は堅調に伸長してきたが、2018年後半から米中貿易摩擦の影響などで陰りが出ていた。一般的に自動車部品メーカーは2-3年先までの受注に基づき設備投資を行い、必要な人員も事前に確保している。生産台数が計画を下回ったり、新車開発や生産開始が遅れたりする場合は固定費負担が増して損益に響く。完成車メーカーが工場の閉鎖やラインの集約を通じて生産能力を縮小する影響も小さくない。2020年は自動車需要が前年比2割ほど落ち込む可能性があるうえ、感染の収束次第ではさらなる下振れも懸念される。足元では不要不急の投資の先送りや人員の適正化などを進めていく方針だが、売上高の急激な減少を補うまでには至らず、当面の業績には強い下押し圧力がかかる。

デンソー（証券コード:6902、発行体格付=AA+）や豊田自動織機（6201、AA）、アイシン精機（7259、AA-）などのトヨタ系部品メーカーは、トヨタグループを中心とする非常に強固な顧客基盤が格付を支える。スタンレー電気（6923、A+）は収益性が高く、資本負債構成は極めて良好な水準にある。日本特殊陶業（5334、A+）は補修用スパークプラグの貢献もあって収益性が非常に高く、格付には安定感がある。

NTN（6472、A-）は固定資産の減損が響いて2019年度は大幅な最終赤字となった。課題を抱える債務とキャッシュフローのバランスや資本負債構成がさらに悪化しており、信用力に下押し圧力がかかっている。ミツバ（7280、BBB-）は四輪事業の低迷に加えて、好採算な新興国向け二輪ビジネスにも悪影響が及ぶ懸念がある。もともと財務基盤にも課題があるだけに、7月に予定される決算発表を確認し、収支・財務や流動性の状況を見極めていく。この他、主要顧客の競争力低下などが収益基盤や財務基盤に響く自動車部品メーカーが出てくる可能性もあり、今後の状況には注意を怠れない。

主任格付アナリスト：福井 遊太

■お問合せ先 : マーケティング本部 カスタマーサービス部 TEL. 03-6273-7471 E-mail. infodept@r-i.co.jp

■報道関係のお問合せ先 : 経営企画室(広報担当) TEL. 03-6273-7273

株式会社格付投資情報センター 〒101-0054東京都千代田区神田錦町三丁目22番地テラススクエア <https://www.r-i.co.jp>

信用格付は、発行体が発行する金融債務についての総合的な債務履行能力や個々の債務等が約定通りに履行される確実性（信用力）に対するR&Iの意見であり、事実の表明ではありません。また、R&Iは、信用リスク以外のリスクにつき意見を表明するものではなく、投資判断や財務に関する助言や、投資の是非等の推奨をするものではありません。R&Iは、信用格付に際し関連情報の正確性等につき独自の検証を行っておらず、これに関し何ら表明も保証もいたしません。R&Iは、信用格付（変更・取り下げ等を含む）に関連して発生する損害等につき、何ら責任を負いません。信用格付は、原則として発行体から対価を受領して実施したものです。なお、詳細につき<https://www.r-i.co.jp/docs/policy/site.html> をご覧ください。